

第19回福山教育フォーラム分科会(概要)

～効果的な ICT 活用実践研究校事業～

1 パイロット校の実践発表 (P1～)

西小学校	城北中学校
<ul style="list-style-type: none">・ 授業を通して、「情報収集、記録性に長けている」「試行錯誤をしたり、反復作業をしたりするのに効率が良い」等、ICTの有効性を感じている。・ 算数科図形領域の授業実践を通して、デジタルを使うことの良さに気付くとともに、リアルの大切さを感じる事ができた。・ 今後、教科目標達成のために、ICTを「いつ」「どこで」「何を」「どのように」使うのかを明確にしながら、授業づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・ 課題解決に向けて、生徒が学習方法(シミュレーション、実験の撮影、情報共有などのICTに加え、実物、ブロック、教科書、資料、ホワイトボードなど)を自ら選ぶ授業実践、距離や時間を超越できるICTの活用(共有、オンライン授業)の実践を行った。・ 改めて「考えたい問」の必要性を感じている。・ 生徒の「知りたい、やりたい」を引き出すために、学習場面に合わせたICTの活用、「考えたい問」について授業実践を行う。

2 協議「各学校のICT活用の状況」(P11～)

～ICT活用における今悩んでいること、各校の取組内容・工夫点～

Q1 タイピングの技能を上げるためにどんなアプリケーションがあるか。

A1 子どもたちが自身のタイピングの状況に応じて難易度を選べるアプリケーションを利用している。

Q2 著作権(コピー&ペイスト)の指導をどのように行えばいいだろうか。

A2 コピー&ペイストの引用などについての決まりを学習し、自分の考えを入れるなど、調べ学習だけで終わらない課題設定の工夫を行う。

Q3 ドリルアプリケーションは、どのように利用すれば効果的か。

A3 自主学習のみでなく、授業で学習した内容の定着を見るため授業の最後などにも利用している。

Q4 ICTを活用して、どのようなアウトプットの学習を行なっているか。

A4 本の紹介のための録画を行い、自己の振り返りや仲間からの助言、改善につなげている。

学習内容を整理し、相手を意識したプレゼンテーションの作成、発表している。

作成した作品を、学級内や他学年の児童生徒へも見てもらうためアプリケーションで共有している。

3 講話「効果的なICT活用について」講師:山口大学教育学部 准教授 阿濱茂樹(P18～)

○ ICTには、学習への関心を高める効果、学習の理解を深める効果、つまづきや失敗を補う効果がある。

○ ICTを活用することで、学習の記録、学習データの分析を行うことができる。

○ デジタルシティズンシップ教育の推進、家庭との連携、児童生徒とルールとの共有等を行うことで、児童生徒に自律的、主体的にICTを活用する力を育成する。